

中村氏が初当選

金入氏に約1万票差

八戸市長選 投票率59.37%



当選確定の報を受け、Vサインを掲げる中村氏。午後11時35分

任期満了に伴う八戸市長選は二十八日投票が行われ、即日開票の結果、無所属の中村寿文氏(62)＝民主、自由、無会、県民協会推薦＝が五万七千百九十六票を獲得、無所属の金入明義氏(56)＝自民、保守推薦、共産党公認の神田洋一氏(57)、無所属の清水文雄氏(53)との新人同士の争いを制した。金入氏との保守対決は九千八百五票差で大差だった。投票率は59.37%で前回一九九七年を22.95ポイント上回った。

中村氏は田名部匡省参院議員を頂点とする県民協会の支援を受けた。昨年三月の出馬表明以降、百力所以上で集会を開くなど、ほかの三候補に先行する形で運動を展開。父で第十二代市長・故拓道氏の代から続く支持者

を取り込む一方、県民協会系列議員が支持基盤を固めた。

今月始めに県民協会を退会し、「政党性」を薄め、無党派層へアピール。組織力で攻勢に出た金入氏の追い上げを一蹴して、八戸市初の親子二代の市長誕生となった。

一方、金入氏は大島理森代議士を中心とする自民党による党首選挙で総力戦を展開、国、県とのパイプ役を強調した。しかし、出遅れも響き、支持は広がらなかった。

神田氏は基礎票は死守したものの、一九九七年の前回に届かず、保守対決に埋没する形となった。選挙初挑戦の清水氏は、既成政党への批判票の一部を取り込んだが、伸びなかった。